

歴史認識における「記憶」と「歴史学」
ー「日中歴史共同研究」を振り返ってー

防衛研究所戦史部 庄司潤一郎

はじめに

「個人の記憶（回想）」(private memory)・「集団の記憶」(public memory)・「歴史学」

1 歴史認識をめぐる国家間緊張の要因

「個人の記憶」：被害ー加害関係の忘却、抑圧された「記憶」の表出

「集団の記憶」：他者の正統史観に対する挑戦

2 日中両国における歴史認識

[日本] 「集団の記憶」・「歴史学」の分裂と「政治化」

[中国] 「感情記憶」

「個人の記憶」：屈辱の民族的感情、抑圧された「被害」の「記憶」

「集団の記憶」：中国共産党・中華民族の拠り所としての「抗日戦争」→愛国主義教育啓蒙運動 献身的「犠牲」の強調

3 「日中歴史共同研究」の意味ー「公的」共同研究とは？ー

[日本]

① 歴史認識問題の「非政治化」 「保険」(北岡座長)

② 歴史認識の相違の確認・理解と「事実」の検証→ギャップの縮小化

③ 成果の対外的発信 英語

[中国]

① 歴史認識の共有 教科書への反映？

② 政治とのリンク

・ 基本的精神＝日中間の取り決め（3大文書）

・ 公式見解による制約

③ 国内世論に対する配慮

おわりにー「記憶」と「歴史学」を対立させないためにー

ドイツ・ポーランド歴史教科書対話の示唆するもの